



令和4年
5月

さいたま市立木崎小学校 学校だより

きざき

令和4年4月28日（木）

TEL048-831-2281

<http://kizaki-e.saitama-city.ed.jp/>

E-Mail kizaki-e@saitama-city.ed.jp

子どもファースト

校長 石川 顕一



▲1、2、3、4。

学校の桜は、薄桃色から緑色に変わりました。すがすがしい季節がやってきました。一方で新型コロナウイルスは依然として収束することなく、本校では継続して感染拡大防止に取り組んでいます。感染状況を注視しながら、教育活動を進めてまいります。

先日、書店に行ったときのことです。子どもが「〇〇の本を買ってほしい。」と母親にせがんでいました。読書離れが叫ばれている

昨今、いいことではないかと思って見ていましたが、その母親は「そのシリーズはたくさん持っているでしょ」と取り合いません。「こんな本はどう」と、親は自分が読ませたい本のあるコーナーに子どもを誘います。そして、しばらくすると親子喧嘩が始まりました。

母親にとっては、子どものことを思った「子どもファースト」の行動だったのでしょうか。しかし、この子どもにとっては、自分が考えること、自分で決めることが「子どもファースト」だったようです。母親と子どもでは「子どもファースト」が違っていたのです。

では、子どもファーストとはどのようなことをいうのでしょうか。最初に思い浮かぶのは、辛い思いをしている子どもの気持ちに寄り添うこと、共感することではないでしょうか。涙を流している子ども、元気のない子どもを見て、放っておく大人はいません。

さらに、未来を生きる子どもたちに、先述の自分で考えること、自分で決めることはもとより、自分を大切にできる心、仲間と折り合いをつける力、自分の感情をコントロールする力など多岐にわたる「人間力」を身につけさせることも重要です。子どもたちは、私たち大人よりも長く生きていきます。いずれ親元を離れます。親はずっとそばにいられません。その時に、笑顔いっぱいに自律して、大人として生きていくための「人間力」を身につけさせることも子どもファーストの重要な要素です。

書店の話は、教室でもいえることです。限られた時間の中で、誰一人も取り残さないようにとの焦りからか、指導が一方的になることがあります。これが過ぎると、子どもたちには、自分の意見が言えない、自分で決められないというストレスがたまります。ひいては、何事にも受け身な子どもたちを、時には反発的な集団をつくることになりかねません。

木崎小学校では、真の「子どもファースト」を目指してまいります。子どもたちの気持ちに寄り添い、また、子どもたちが変化する社会の中で、笑顔でいられるため必要な「人間力」が身につくように指導してまいります。子どもの笑顔のために、学校と家庭・地域が同じ方向を向き、互いに力を尽くしてまいりたいと存じます。何卒よろしく願いいたします。